

脳神経細胞の活動によって引き起こされる「てんかん」について、新治療法の開発を進めている九州工業大、山口大、静岡大が13日、北九州市若松区の北九州学術研究都市会議場で、患者や家族向けのシンポジウム「天から与えられた本当の人生を取り戻すために」を開く。

北九州で
13日シンポジウム

国内では約25万人が難治性てんかんによる発作で日常生活に支障を来しているとされる。原因個所を切除する手術では正常な部位まで切除することになり、記憶や言語、知覚などに後遺症を起すケースがある。

そこで3大学は昨年6月から、4年計画で後遺症を抑える新治療法の開発をスタート。脳に針状の電極を差し込んで1ミリ以下の精度で原因個所を特定し、瞬間冷却か焼却で患部を破壊する研究を進めている。

シンポジウムでは、研究代表者を務める九州工業大大学院の山川烈特任教授らが研究内容や新しい抗てんかん薬、手術などについて講演。参加者と専門医の意見交換会も開く。

シンポジウムは午後1時～4時40分。参加無料。申し込みは12日まで、山川特任教授の研究室に電話
093・6955・612
3) カブックス (093・6955・612) 電子
6955・6123) 電子
メール (yamaoka@b
ratokai.yuech.ac.jp)

てんかん新治療 研究者の声伝えたい

専門家と意見交換会も

患者や家族向け